

子育てするなら西予応援米事業（事業完了のご報告）

【えひめ人口減少対策総合交付金「市町独自提案」活用事業】

事業目的：地元のお米を身近に感じてもらい、ふるさとへの理解を深め、愛着や誇りを育んでもらいたい！

▼農業体験を通じたシビックプライドの醸成

8/23 日本農業新聞



「セイっばい！米っばい」

- 対象：市内全中学生（約755人）
- 内容：地元農家が育てた新米20kgを配布
- 実績：申込率 **98.5%**（極めて高い満足度）



単なる配布に留まらない「多面的成果」

- 食育×防災：田んぼダム学習と農業体験の実施
- 地域連携：コープえひめとの配送協力、高校生による子ども食堂支援への発展
- 経済循環：余剰米をふるさと納税へ活用し寄附額増

市内32人の生産者、7品種のお米、約15トンが集まる！



各生産者の体験メニュー参加者

・8/20（宇和）農事組合法人加茂ファーム（野菜定植）	6名
・8/21（宇和）清沢保全協議会田んぼダム学習（座学見学）	11名
・8/30（城川）棚田保全（手刈り、稲木架け）	13名
・9/14（宇和）専業農家の醍醐味体験（コンバイン収穫）	3名
・9/27（城川）農作業請負人の稲作体験（もみすり）	2名
・10/15（宇和）田力本願と11/16の愛媛産産祭り作戦会議	6名
・10/18（宇和）青年後継者と保育園児との交流（手刈り体験）	11名
・11/16（松山）田力本願と愛媛産産祭りで米どころ産地PR	6名



寄付希望者 ※47人分のお米940キロは、市内の子ども食堂、学校給食で活用

お米配布不要として、申込時に寄付を選択いただいた方々のお米については、宇和高校企画の子ども食堂、地域づくり活動センターが実施する子ども参加型の地域食堂、市内保育園、小中学校給食に活用。

メディア・SNSを網羅した戦略的広報による認知拡大

新聞各紙による報道に加え、インフルエンサー（チチコ・背中男）を起用した情報発信により、子育て世代へのダイレクトな訴求と地域ブランドの認知向上を実現。市HPに特設ページを構築し、事業内容のみならず、協力事業者（生産者）の思いやストーリーを掲載。

令和8年度の事業展開～「米」から「西予の全産業」へ～お仕事体験の拡充

本事業の成功モデルを基盤に、R8年度は柑橘・畜産・漁業などへ横展開。「お仕事体験」を軸とした若年層の定着・回帰を促す独自施策をさらに加速させる。